

同十二日ニ安宮様年始ノ爲御祝儀大奥へ被爲入爲御迎鶴殿十郎左衛門被遣之三年正月三日若君様御年頭ノ爲御禮三丸へ被爲入夫ヨリ御本丸へ入御ナリ

賀狀

〔伏見宮所藏宸翰類一〕稱光院宸翰

まことに年立かへり候春のまゐるしもけふのかひあるめでたさいよく天下おだやかに朝家再興の時いたり候へば宮中も毎事御満ぞくの春にて候はんといはひ入参らせ候なほとくげさんの時盡期候はぬ祝詞申うけ給ふべく候このよし御口口参らせ候かしこ

後栢原帝宸翰寫

まことに改正の慶事日新又日新朝廷のまつりごと聖代にこえ宮中舊貫に復し才名美譽世にほどこされ候へば祝詞のかぎりにあらず候かならず参會候て永々申承り申口候ことに芳樽濟々送賜候千秋萬歳いはひ入まゐらせ候輕微に候へどもおなじく春祝言候日々御慶申うけ給へかしかしこ

ふし見殿へ参る

勝仁

正親町天皇宸翰

まことにあらたまり候年の光もかひあるめでたき天下いよ／＼をさまり候てまつり事むかしのごとく再興の時をえ候へば宮中も御はむぢやう候てよろづ御心に殘る事なき御満ぞくことぶきのかぎりもあらずおしはかりまゐらせ候て日をかさねてのめでたきはとく御参賀候て申され候べしあなかしこ

伏見殿へ御返事

後陽成天皇御眞翰

誠鳳曆端をあらため夏正三陽の運會に對し龍躰次を易て堯天兩儀の交泰にあたる百鳥聲和